

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1992000016		
法人名	社会福祉法人にんじんの会		
事業所名	グループホームにんじん・上野原		
所在地	山梨県上野原市上野原522番地		
自己評価作成日	2015年11月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成27年11月26日(木)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様がその人らしく暮らして頂ける様に、職員一同心掛けています。入居者様の人格を尊重し、有する能力を最大限に活かし、維持していける様に支援しています。また、利用者様やご家族様から伺った生活暦等を元に個別ケアを行なう事でより楽しみを持った生活を送って頂ける様にしています。毎年8月には夏祭りを、昨年10月より認知症カフェを毎月開催し、ご家族や地域の方と交流を図っています。当事業所はグループホームの他に訪問看護・通所介護・小規模多機能型居宅介護などの事業を併設しており、他事業との連携も密に取れているのが強みです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中央自動車道上野原インターからほど近い黄色い建物の地域密着型サービス事業所は、法人複合介護施設「にんじんホーム・上野原」として建設され、1階に小規模多機能型居宅介護、通所介護、訪問介護、居宅介護支援、訪問看護が同一建物に、2階に「グループホームにんじん・上野原」が相互に共有・協力しながら「地域に根差し開かれた施設」として貢献し「誰もが安心して暮らせる地域づくり」をめざしている。昨年度10月より「認知症はるカフェ」を毎月開催して、地域の住民との交流を多く持っている。厚生省の職員を招いて上野原市役所ホールを借りて保険制度の説明講演会を行って地域住民170余名が参加した。高校・中学校に出向いての介護についての講演や介護実習体験等で交流を図っている。帝京大学アニマルサイエンス学科との協力を得て動物達と楽しいひと時を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名(グループホームにんじん・上野原)

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(柚子)	ユニット名(ピーチ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人及び事業所の理念、目標をフロアに掲げ、管理者・職員共々共有、実践している。	法人及び事業所の理念、目標をフロアに掲げ、管理者・職員共々共有、実践している。	法人の理念の目標から職員間で検討し、グループホームの目標「日常生活の中で個人の楽しみを増やした生活を豊かにする」を掲げ、各係のグループで検討して実践に繋げている。年度ごとに目標を決めて掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや認知症カフェを通じて、地域の方々とも交流を図っている。また、地域の祭りへ招待を受け、参加している。	夏祭りや認知症カフェを通じて、地域の方々とも交流を図っている。また、地域の祭りへ招待を受け、参加している。	2か所の地域の自治会に入っている。公報、地域の回覧から防災、お祭りなどの情報を得て交流を図っている。認知症カフェを毎月開催して地域住民、ボランティアが多く参加している。上野原高校に出向いて介護についての講演をしたり、実習介護の受け入れ、中学生の職場体験を受け入れるの交流も図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年10月から毎月1回、認知症カフェを開催し、地域の方を招いて様々なイベントを催している。内容は介護保険制度変更に伴う講演会(厚生労働省から県上課長補佐様を招いた開催)や当法人でのだんだんダンス等、幅広く開催している。	昨年10月から毎月1回、認知症カフェを開催し、地域の方を招いて様々なイベントを催している。内容は介護保険制度変更に伴う講演会(厚生労働省から県上課長補佐様を招いた開催)や当法人でのだんだんダンス等、幅広く開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回で開催している。その場でご入居者様やご家族、地域の方、行政の方と意見交換を行ない、行政の方へ2ヶ月間の活動報告(スクリーンを活用して映像で実施)、利用状況、どつきと報告等を行い参加者より意見を頂き、サービス向上に繋げている。	2ヶ月に1回で開催している。その場でご入居者様やご家族、地域の方、行政の方と意見交換を行ない、行政の方へ2ヶ月間の活動報告(スクリーンを活用して映像で実施)、利用状況、どつきと報告等を行い参加者より意見を頂き、サービス向上に繋げている。	奇数月の水曜日又は土曜日に定期的を実施している。利用者の家族5~6名が参加、事業所から各ユニットの活動報告、各係(写真・掃除他)の報告、取り組みを伝える。「スクリーン」を活用して日々の活動を映して見ている。その後家族会を開催して職員間との交流を図っている。参加できない家族には報告書を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回以上、担当部署を訪問し、現状やサービス向上に付いて逐一報告し協力関係を築いている。	月に1回以上、担当部署を訪問し、現状やサービス向上に付いて逐一報告し協力関係を築いている。	事故の報告や入居時の相談等で協力関係を築いている。推進会議での内容(日々の活動や取り組み、質問内容を明記した物)を市長宛に報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケアの実践」については職員も十分理解し、積極的に取り組んでいる。危険が伴う事が予測される行動については観察して対応を考えている。また、必要があればご家族や医療関係者とも検討し、安定した生活を送れる様に支援する。	「身体拘束をしないケアの実践」については職員も十分理解し、積極的に取り組んでいる。危険が伴う事が予測される行動については観察して対応を考えている。また、必要があればご家族や医療関係者とも検討し、安定した生活を送れる様に支援する。	月1回のミーティング等の場や世間で起きた事故・問題について回覧等で身体拘束の共有、確認に努めている。スピーチロックは全員が理解している。また気づいた時は職員間で注意しあっている。利用者は日常2階で生活していて、エレベーターで降りて来た時は入口の事務所の職員が対応して2階職員と連携をとっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待の防止」については法人内での勉強会の開催等で学習する機会はある。サービス提供時も常に念頭に入れ観察している。特に入浴時は身体の状況に注意を払っている。	「虐待の防止」については法人内での勉強会の開催等で学習する機会はある。サービス提供時も常に念頭に入れ観察している。特に入浴時は身体の状況に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」については、職員全員が理解しているとは、言いがたい。個別のケースを通じて必要な範囲で学習する事が出来る。今後は勉強会の開催等を行い理解を深めていく。	「権利擁護」については、職員全員が理解しているとは、言いがたい。個別のケースを通じて必要な範囲で学習する事が出来る。今後は勉強会の開催等を行い理解を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、管理者や計画作成担当者が十分に説明を行なっている。疑問などがあればその場で説明し理解、納得を得ている。	契約については、管理者や計画作成担当者が十分に説明を行なっている。疑問などがあればその場で説明し理解、納得を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(柚子)	ユニット名(ピーチ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議とその後には家族会を開催し直接意見を聞く機会を設けている。ご家族の要望には出来るだけ個別に対応して、利用者様のQOL向上に繋げている。	2ヶ月に1回開催している運営推進会議とその後には家族会を開催し直接意見を聞く機会を設けている。ご家族の要望には出来るだけ個別に対応して、利用者様のQOL向上に繋げている。	家族会にて直接聞く機会を持っている。面会時に個別の要望・希望を聞くようになっている。また職員側から利用者の入居前の希望等を聞き、共に支援出来る方法を見つけている。利用者から「富士山を観たい、海が観たい」等の意見から紅葉レクを兼ねて河口湖へドライブに行った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月事業所内ミーティングを開催し、職員の意見を聞く機会を設けている。その中で、法人全体の問題としていく事柄はリーダー会議、事業所長会議に上げ、反映させている。	毎月事業所内ミーティングを開催し、職員の意見を聞く機会を設けている。その中で、法人全体の問題としていく事柄はリーダー会議、事業所長会議に上げ、反映させている。	法人で年3回職員の個人面談の機会を持って意見を聞いている。季節感を味合うために行事食で使う重箱の希望、アニマルセラピーの導入、会議に使うプロジェクター・スクリーンの購入等、多くの要望・要望が出され実践の中で生かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の就業に関しては、法人として規定集に定めている。年数回は管理者と面談する機会があり、その中で各職員の意見を聞き取り安定して就労出来る様に努めている。	職員の就業に関しては、法人として規定集に定めている。年数回は管理者と面談する機会があり、その中で各職員の意見を聞き取り安定して就労出来る様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には3ヶ月の研修期間を設け、知識、技術が習得出来る様に計画されている。日常業務の中で必要があれば、いつでもミーティングを開催し全員がスキルアップしている様に努めている。また法人内で定期的に研修会、勉強会を開催している。	新人職員には3ヶ月の研修期間を設け、知識、技術が習得出来る様に計画されている。日常業務の中で必要があれば、いつでもミーティングを開催し全員がスキルアップしている様に努めている。また法人内で定期的に研修会、勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との会議や勉強会にも積極的に参加して、サービスの質を向上させている。	地域の同業者との会議や勉強会にも積極的に参加して、サービスの質を向上させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や契約時にご本人、ご家族から要望をお聞きし、安心確保のための関係作りに努めている。また管理者、ユニットリーダー、計画作成担当者、居室担当者を中心にコミュニケーションを積極的に進めている。	入居前の面談や契約時にご本人、ご家族から要望をお聞きし、安心確保のための関係作りに努めている。また管理者、ユニットリーダー、計画作成担当者、居室担当者を中心にコミュニケーションを積極的に進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関する受付や申し込みの段階でご家族から要望をお聞きし、関係作りに努めている。また先に居室担当者を紹介し、担当窓口であることも伝え、安心して頂いている。	入居に関する受付や申し込みの段階でご家族から要望をお聞きし、関係作りに努めている。また先に居室担当者を紹介し、担当窓口であることも伝え、安心して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受付や申し込みの段階で、要望されている支援や優先順位を話し合っている。他のサービスを含めトータル的な対応に努めている。	受付や申し込みの段階で、要望されている支援や優先順位を話し合っている。他のサービスを含めトータル的な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に出来る事は行なって頂く。有する能力の維持向上に努めると共に、職員と一緒に家事活動を行なうなどしている。また、居室担当者を中心にその人らしく生活できる様にケアを実践し関係を築いている。	入居者様に出来る事は行なって頂く。有する能力の維持向上に努めると共に、職員と一緒に家事活動を行なうなどしている。また、居室担当者を中心にその人らしく生活できる様にケアを実践し関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(柚子)	ユニット名(ピーチ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	法人や施設の決まりに基づき、ご家族共々ご本人を支援するように努めている。	法人や施設の決まりに基づき、ご家族共々ご本人を支援するように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方にも施設に来て頂くよう、イベント等を通じて広報する他、可能な限り外出支援に努めている。 デイサービス等を併設している為、子ども時代の知人等と交流する機会がある。	馴染みの方にも施設に来て頂くよう、イベント等を通じて広報する他、可能な限り外出支援に努めている。 デイサービス等を併設している為、子ども時代の知人等と交流する機会がある。	1階の通所介護の利用者が地域の高齢者で、日々の生活の中で1階に行ったり、来たりで触れ合いが多く持たれて楽しんでいる。また地域の祭りに参加して地域住民との交流を図っている。入居前に行っていた近所のスーパーへの買い物や馴染みの美容師が来てカットしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や行動パターンを把握し、入居者様同士の関係にも目を配っている。また、複数の入居者様と共に一緒に作業を行なう等、入居者様がお互いに関わり合える環境整備に努めている。	入居者様の性格や行動パターンを把握し、入居者様同士の関係にも目を配っている。また、複数の入居者様と共に一緒に作業を行なう等、入居者様がお互いに関わり合える環境整備に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される等して契約が終了した、元入居者様に対しても必要に応じてフォローしている。	退去される等して契約が終了した、元入居者様に対しても必要に応じてフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常ケアの中で、積極的にコミュニケーションをとり、入居者様の意向を把握する様に努めている。ご本人の意向を聞き取るのが難しい場合は、ご家族とよく話し合いを行い、入居者本位のケアが提供出来る様にしている。	日常ケアの中で、積極的にコミュニケーションをとり、入居者様の意向を把握する様に努めている。ご本人の意向を聞き取るのが難しい場合は、ご家族とよく話し合いを行い、入居者本位のケアが提供出来る様にしている。	入居時のアセスメントの中から利用者の情報を得て、暮らしの中の支援に活かしている。時には入浴時個別の会話の中から利用者の意向も聞かれる。また定期のミーティングで職員間で共有して全員が把握している。困難な利用者には日常の生活の中で表情や動きの中から把握し支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴や趣味、旅行などの把握に努め、コミュニケーションの中でその方の意向を尊重しケアを実施している。また居室には馴染みの家具や写真、アルバムなどを置いている。	入居者様の生活歴や趣味、旅行などの把握に努め、コミュニケーションの中でその方の意向を尊重しケアを実施している。また居室には馴染みの家具や写真、アルバムなどを置いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人、自由に過ごしていただく時間を設けている。デイサービスなどの利用者と一緒に体操等を実施し、身体状態や有する能力の現状把握に努めている。	個人個人、自由に過ごしていただく時間を設けている。デイサービスなどの利用者と一緒に体操等を実施し、身体状態や有する能力の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月スタッフミーティングを開催し、入居者様の現状について情報を共有すると共に、必要に応じてご本人やご家族と話し合いを行なっている。現状に即した介護計画を作っている。	毎月スタッフミーティングを開催し、入居者様の現状について情報を共有すると共に、必要に応じてご本人やご家族と話し合いを行なっている。現状に即した介護計画を作っている。	入居時の情報を基にプランを作成し日々の関わりの中で介護者が把握して、ミーティングで職員間で共有して、利用者家族の思いや意見を聞き、反映させるようにしている。また、状態の変化に応じたプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録を作成し、日々の様子を記入、観察し職員間で情報共有を図っている。	ケア記録を作成し、日々の様子を記入、観察し職員間で情報共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(柚子)	ユニット名(ピーチ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意思を尊重し、併設している通所介護事業所にも入居者様をお連れし、体操やゲームを行う等、ご希望されるケアを提供する。	ご本人の意思を尊重し、併設している通所介護事業所にも入居者様をお連れし、体操やゲームを行う等、ご希望されるケアを提供する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り地域の行事にも参加し、有する能力を維持できる様に支援している。	可能な限り地域の行事にも参加し、有する能力を維持できる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、一人ひとりのかかりつけ医とも連携を取り、適切な医療が受けられる様に支援している。	入居者様、一人ひとりのかかりつけ医とも連携を取り、適切な医療が受けられる様に支援している。	利用者の約半数は入居前のかかりつけ医で、基本的には家族同行の受診となっている。対応できない場合は、家族の希望で有料ヘルパーを利用して受診している。病状の状態で職員が付き添う場合もある。他の利用者は往診の出来る在宅医をかかりつけ医とし、定期受診で月2回、事業所に来ての対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、看護師を交えたミーティングを実施、入居者様の体調管理に努めると共に、日中、夜間を通し、入居者様に異変が生じた場合、看護師と共にケアにあたっている。	毎朝、看護師を交えたミーティングを実施、入居者様の体調管理に努めると共に、日中、夜間を通し、入居者様に異変が生じた場合、看護師と共にケアにあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のみならず、途中でもお見舞いに行くなどしながら、病院関係者とも他事業所で関連がある為、日常より関係作りをしている。	入退院時のみならず、途中でもお見舞いに行くなどしながら、病院関係者とも他事業所で関連がある為、日常より関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の在り方については、希望のあるご家族・ご本人に話し合いの場を設けて随時説明を行っている。	重度化、終末期の在り方については、希望のあるご家族・ご本人に話し合いの場を設けて随時説明を行っている。	入居時終末期の対応の意向について家族から確認を取って看取りに取り組んでいる、食事が経口摂取出来なくなった時点で、主治医の意見をもらい、家族、医師、看護師介護、ケアネジャー等が連携をとり、安心して納得した最後を迎えられるように、随時意志を確認しながら取り組んでいる	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルは整備されているが、まだ経験の浅い職員を始め、対応訓練を実施したがまだ充分とは言えない。今後も訓練や勉強会を実施していきたい。	急変時の対応マニュアルは整備されているが、まだ経験の浅い職員を始め、対応訓練を実施したがまだ充分とは言えない。今後も訓練や勉強会を実施していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害や地震を想定した避難訓練を実施している。	定期的に災害や地震を想定した避難訓練を実施している。	年2回避難訓練を行っている。通所介護と合同、夜間想定通報訓練、車椅子で2階からの避難等、定期的に行なっている。また火災を想定して布団でのひな人を職員間で体験している。地域の核として上野原市から委託を受け備蓄の米、水、食糧等備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者様の声に耳を傾け、丁寧な声掛けや言葉使いをするように心掛けている。 写真の掲載等の利用は了解を得て行っている。	常に入居者様の声に耳を傾け、丁寧な声掛けや言葉使いをするように心掛けている。 写真の掲載等の利用は了解を得て行っている。	言葉掛けの大切さは全職員が理解して日々の支援に励んでいる。男・女の利用者に掛ける言葉や、生活歴に対しての配慮にも心掛けている。また大きい声での対応にも注意をしている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(柚子)	ユニット名(ピーチ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の様子に目を配り、要望を傾聴するように職員に指導を行っている。	入居者様の様子に目を配り、要望を傾聴するように職員に指導を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは大方決まっているが、基本的には入居者様のペースを尊重している。	一日のスケジュールは大方決まっているが、基本的には入居者様のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を着られる様に支援すると共に、季節の変わり目にあった洋服を用意して頂ける様にご家族にも話している。	季節に合った服装を着られる様に支援すると共に、季節の変わり目にあった洋服を用意して頂ける様にご家族にも話している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回のイベント食、おやつ作りを行っている。食事で季節感を感じて頂ける様に支援している。また、準備や片付け等も出来る限り一緒に行っている。	月1回のイベント食、おやつ作りを行っている。食事で季節感を感じて頂ける様に支援している。また、準備や片付け等も出来る限り一緒に行っている。	食事係が利用者の要望を取り入れてメニューを作成している。日曜日を除く昼食は外注、朝・夕食、日曜日の昼食は利用者と職員が協力して対応している。外食で高速「談合坂サービスエリア」に行くこともある。月1回のイベント食には刺身、赤飯等で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分の確保については日々記録を取っている。水分は毎食のほか10時と15時にお茶等を提供している。習慣や好みに応じた支援を実施している。	食事量や水分の確保については日々記録を取っている。水分は毎食のほか10時と15時にお茶等を提供している。習慣や好みに応じた支援を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが自力で出来る方は見守りや声掛けで行って頂いている。介助が必要な方はその人に応じた介助を実施している。	口腔ケアが自力で出来る方は見守りや声掛けで行って頂いている。介助が必要な方はその人に応じた介助を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様のADLに合わせたオムツやリハビリパンツ・パッドを使い分けている。またアセスメントを行い排泄時間やパターンを把握しトイレ誘導を行い自立出来るように支援している。	各利用者様のADLに合わせたオムツやリハビリパンツ・パッドを使い分けている。またアセスメントを行い排泄時間やパターンを把握しトイレ誘導を行い自立出来るように支援している。	排泄係や担当者等が共有して、利用者の状態に合った支援に取り組んでいる。車椅子対応でも尿意がありそうな利用者にトイレ誘導から、利用者自らの要望で、介助移動にて布パンツのみになった。また病院から退院後、杖介助にてトイレで排泄出来るようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様に合った運動を取り入れたり、こまめな水分補給を促し便秘の予防に努めている。便秘が起こった場合には看護職とも相談し下剤を服用して頂いている。また排便の有無も毎日チェックして記録している。	入居者様に合った運動を取り入れたり、こまめな水分補給を促し便秘の予防に努めている。便秘が起こった場合には看護職とも相談し下剤を服用して頂いている。また排便の有無も毎日チェックして記録している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間帯は設定してあるが、極力入居者様の意向を尊重し入浴をして頂いている。また入浴介助に関しては出来る事はご自身で行って頂く様に心掛けている。	入浴時間帯は設定してあるが、極力入居者様の意向を尊重し入浴をして頂いている。また入浴介助に関しては出来る事はご自身で行って頂く様に心掛けている。	2ユニット(柚子、ピーチ)で午前中、午後、月曜日から土曜日実施しているので自由に利用者の希望に添って対応をしている。また希望で日曜日に入浴対応することもある。車椅子の利用者は1階通所介護のリフト浴での対応をしている。体調不良の場合は清拭、足浴を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(柚子)	ユニット名(ピーチ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日のうち、入浴や食事などの決まった時間以外は、入居者様のペースで過ごして頂いている。人によっては昼寝をしたりマイペースで過ごして頂いている。夜間眠りの浅い方は、ご家族や医療関係者と話し合いを行い、入眠導入剤を使用する事もある。	一日のうち、入浴や食事などの決まった時間以外は、入居者様のペースで過ごして頂いている。人によっては昼寝をしたりマイペースで過ごして頂いている。夜間眠りの浅い方は、ご家族や医療関係者と話し合いを行い、入眠導入剤を使用する事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬については特に注意を払い、管理・服用して頂いている。一人ひとりの服薬についてもしっかりと飲込めた事を確認する様に努めている。また状況の変化があった際には看護職と連携を取るようになっている。	入居者様の服薬については特に注意を払い、管理・服用して頂いている。一人ひとりの服薬についてもしっかりと飲込めた事を確認する様に努めている。また状況の変化があった際には看護職と連携を取るようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の趣味や嗜好の把握に努め、数人でゲームをされたり出来る方には洗濯物や清拭類を置いて頂いている。また食事の準備や片付けなどをスタッフと一緒にこなしている。	入居者様の趣味や嗜好の把握に努め、数人でゲームをされたり出来る方には洗濯物や清拭類を置いて頂いている。また食事の準備や片付けなどをスタッフと一緒にこなしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域のイベントやドライブ、外食などのレクリエーションを実施した。また天気の良い日には散歩にも出かけている。	地域のイベントやドライブ、外食などのレクリエーションを実施した。また天気の良い日には散歩にも出かけている。	声掛けで近所に車椅子の利用者と一緒にかけている。利用者の「富士山が観たい、海が観たい」の希望・要望で4回に分けてドライブを兼ねて、家族も参加して河口湖に出掛けている。帝京大学方面へ動物を見に行く、柵原の祭りや紫陽花を見に行くなど、季節を感じる場所への外出等、積極的に外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設でお金を預かっていない。入居者様によってはご自身のお金で買い物をするなどを行う支援は行っている。	基本的に施設でお金を預かっていない。入居者様によってはご自身のお金で買い物をするなどを行う支援は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的にご家族との連絡は職員が行っているが、要望のある入居者様には電話など、家族とのやり取りが出来る様に支援している。	基本的にご家族との連絡は職員が行っているが、要望のある入居者様には電話など、家族とのやり取りが出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには温度計や湿度計を備え、環境には配慮している。また廊下などには入居者様の日常写真を掲示し生活感を出すように努めている。	共用スペースには温度計や湿度計を備え、環境には配慮している。また廊下などには入居者様の日常写真を掲示し生活感を出すように努めている。	2ユニット(柚子・ピーチ)の共有空間は全体的に見渡せて広い感じがする。各ユニットにはキッチン、食器戸棚、ソファ、電話等で落ち着いた雰囲気がある。トイレは各3か所あり車椅子対応もできる。浴室は個浴で柵やツツパリ棒で有効活動できる工夫がされて、居心地の良い場づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはテレビやソファを配置。入居者様が思い思いに過ごせる様に配慮している。	共有スペースにはテレビやソファを配置。入居者様が思い思いに過ごせる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の居室には、自宅で使用されていた家財道具等を可能な限り配置して、ご本人が心地よく過ごされるように努めている。	入居者様の居室には、自宅で使用されていた家財道具等を可能な限り配置して、ご本人が心地よく過ごされるように努めている。	居室の入り口の扉に土地柄と同じ「名刺」が多いということ「名前」での表札になっている。自分で居室の管理が出来ている利用者が多く、スマートフォン、常備薬、ポリドント、酸素の持ち込み、新聞購入、希望でテレビ等個別に応じた生活の工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の位置がわかるように名札を付けている。また、居室や廊下など、全面バリアフリーとなっており、居室や共有部分の窓にも複数のロックが施されている。入居者様の安全には十分配慮した建物になっている。	トイレや居室の位置がわかるように名札を付けている。また、居室や廊下など、全面バリアフリーとなっており、居室や共有部分の窓にも複数のロックが施されている。入居者様の安全には十分配慮した建物になっている。		